

生徒数減少に伴う中学校小規模化による課題及び改善の方向性

資料1

■ 各学校の状況（学級数は特別支援学級を除く）【令和4年度】

生徒数・学級数	生徒数				学級数				
	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校	
全学年 1学級	武川中	20	15	20	55	1	1	1	3
	白州中	23	14	24	61	1	1	1	3
	明野中	23	28	30	81	1	1	1	3
	泉中	40	32	32	104	1	1	1	3
一部2学級	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校	
	須玉中	41	33	43	117	1	1	2	4
全学年 2学級	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校	
	小淵沢中	46	59	49	154	2	2	2	6
	長坂中	55	58	55	168	2	2	2	6
一部3学級	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校	
	高根中	66	78	71	215	2	3	3	8

甲陵中	40	40	40	120
-----	----	----	----	-----

全中学校	354	357	364	1075
------	-----	-----	-----	------



■ 今後、想定される各学校の状況【令和16年度】

生徒数・学級数	生徒数				学級数				
	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校	
全学年 1学級	白州中	16	15	14	45	1	1	1	3
	武川中	17	17	22	56	1	1	1	3
	明野中	17	16	21	54	1	1	1	3
	泉中	32	24	31	87	1	1	1	3
須玉中	30	27	31	88	1	1	1	3	

一部 2学級	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校
	小淵沢中 (A.A)	19	21	25	65	1	2	2
一部 2学級	1年	2年	3年	全校	1年	2年	3年	全校
	長坂中	38	47	53	138	1	2	2
高根中	36	43	32	111	1	2	1	4

※ AA：アメージング・ア
カデミー（ ）は外数

北杜市の中学校における【主な現状と課題】

※適正規模審議会、中学校ヒアリング等での意見からまとめたもの

- 甲陵中を除く8校の生徒数は50～210人、平均すると120人。半数の学校で学年単級でありすべての学校が小規模校である。また、高根地区以外は、小学校からそのまま中学校に進学している。

北杜市の中学校が小規模校であることによる「よさ」としては、主に
・小学校の人間関係を中学校に継続し深められるとともに、生徒一人一人の存在が大きく、活躍できる機会が多い。

- ・少人数学級が少人数教育につながり個に応じた学習指導が行えるとともに、教員と生徒の距離が近く親密な関係が築ける。
- ・小学校区と同一地区では家庭や地域と連携した教育活動が継続しやすい。などが挙げられる。

- 一方、「課題」としては、主に次の内容が挙げられる。
- ・学年生徒数が少なく、保育園・小学校からの人間関係が中学校卒業まで続き、固定化されリセットできない。
- ・生徒数が少人数であり、学び合いなどの協働的な学び、多様な学びが制限される。
- ・教員の数が少なく教科担当が0～1名であることから、教科指導の深まりの機会が少なく、また生徒が様々な教師と関わる機会が少くない。
- ・学年が単級であることから学年・学校行事、生徒会活動等における学級同士の高めあいの機会が少くない。
- ・部活動の種目や内容が制限されるとともに、少人数であることで活気のある活動につながるにくい。 など

【参考：学校教育法施行規則 第79条 ・中学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。】

生徒数が減少し、学校規模が縮小している状況の中で、生徒の学習環境をどう整え、保障していくか。

- 「北杜市立小中学校適正規模等審議会」において、上記の課題を改善していく方向性として示された提言が次の3案である。

垂直統合（小学校と中学校の統合）

- ◆垂直統合のねらい
 - 同一地域のそれぞれの小学校と中学校を統合する。
 - ・8地区ごと、もしくは複数地区の【小中一貫型小学校・中学校】をつくる。
 - ・小学校と中学校のつながりを強くし、小中学校としての学校の規模を大きくする。
 - ・施設の形態には【一体型、隣接型、分離型】がある。(分離型では、現状とあまり変わらない。)
 - ・小中学校の教職員が、9年間の教育課程を編成し、系統的な教育を目指した教育を行う。
 - ・ICTを活用し、他の学校と連携した教育を行う。

◆垂直統合による教育の主なねらい

- ・小学校での人間関係をそのままに中学校で深めていく。
- ・小学生と中学生の交流を活かした教育を推進する。(児童と生徒のつながりの中で、人間関係の豊かさを醸成する)
- ・小規模校のよさを残しながら、小中統合により一定の規模化を図る。
- ・中学校の教員数は現状のままであるが、小中学校の教職員の乗り入れにより、指導を充実する。
- ・小学校と中学校の指導上の壁をなくす。(中1ギャップ) など

水平統合（複数の中学校の統合）

- ◆水平統合のねらい
 - 現在の8校を1～2校に統合する。
 - ・学年の学級数が3～4学級となることを目指す。
 - ・教科教員が9教科すべてに配置される。
 - ・5教科(国社数理英)の教員が複数配置される。
 - ・部活動の設置種目が増え、生徒の希望に添える。

◆水平統合による教育の主なねらい

- ・複数の小学校から集まることにより、さらに人間関係を広げ、社会性を高めるとともに、互いが刺激し合い切磋琢磨する関係を築く。
- ・生徒数・教職員数の増加による一定規模の集団を構成することにより、生徒の多様な興味や関心に応じた教育を推進する。
- ・学年が複数学級で構成されることにより、学年・学校行事や生徒会活動が高め合い広がりのある活発なものになる。
- ・これまでの8地区ごとの学区が、北杜市学区、もしくは複数地区の学区になることにより、北杜市全体を地域として捉えた教育を進める。
- ・教科担当が複数配置されることにより、教員の教科指導力の向上を図る。 など

垂直と水平の組合せ統合

- ◆組合せ統合のねらい
 - 各学校、地区の状況に応じ、複数の中学校を統合する。もしくは、地区単位で小中一貫型小学校・中学校をつくる。
- 水平統合の場合
 - ・垂直統合以外の学校を1～2校に統合する。
 - ・学年の学級数が3～4学級となることを目指す。
 - ・教科教員が9教科すべてに配置される。
 - ・5教科(国社数理英)の教員が複数配置される。
 - ・部活動の設置種目が増え、生徒の希望に添える。 など

□垂直統合の場合

- ・地区単位で小学校と中学校を統合する。
- ・学年の生徒数は少数のままであるが、小学校と中学校のつながりを強くし、小中学校としての学校の規模を大きくする。
- ・施設の形態には【一体型、隣接型、分離型】がある。(分離型では、現状とあまり変わらない。)
- ・小中学校の教職員が、9年間の教育課程を編成し、系統的な教育を目指した教育を行う。
- ・ICTを活用し、他の学校と連携した教育を行う。 など

教職員 【校長、教頭、教科教員、養護教諭、事務職員】
教科教員の人数は、学校の学級数によって決まる。
3学級：6人 4学級：7人 5学級：8人 6学級：9人 7学級：11人 8学級：13人

教科担当教員の配置例

教科 人数	国	社	数	理	音	美	保	技	家	英	計	部活動設置数	
												※	※
4～6	1	1	1	1	1	※ <td>1</td> <td>※ <td>※ <td>1</td> <td>6</td> <td>常設部</td> <td>4～6</td> </td></td>	1	※ <td>※ <td>1</td> <td>6</td> <td>常設部</td> <td>4～6</td> </td>	※ <td>1</td> <td>6</td> <td>常設部</td> <td>4～6</td>	1	6	常設部	4～6
6	1	1	1	1	1	※ <td>1</td> <td>※ <td>※ <td>1</td> <td>7</td> <td>常設部</td> <td>6</td> </td></td>	1	※ <td>※ <td>1</td> <td>7</td> <td>常設部</td> <td>6</td> </td>	※ <td>1</td> <td>7</td> <td>常設部</td> <td>6</td>	1	7	常設部	6
6～9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	※ <td>9</td> <td>常設部</td> <td>6～9</td>	9	常設部	6～9
9	2	1	2	1	1	1	2	1	—	2	13	常設部	9

※現在、小規模校には、上記の音・美・技・家には専門講師が配置される場合もある。

現在の中学校の【生徒数・学級数の状況】

- ・現在の中学校は、合併前の8か町村を学区とする8校に、北杜市を学区とする甲陵中を加え、計9校。
- ・高根地区以外の7地区は、小学校と同一学区で、基本的に小学校の児童がそのまま中学校に進学する。
- ・以前は、すべての学校で複数学級であったが、現在は3学年すべてで単級である学校が4校である。
- ・今後は、3学年すべてが単級である学校が増え、他の学校でも単級の学年が出てくることが想定される。

現在の中学校の【教職員の状況】

- ・教職員の配置数は、学校の学級数によって定められている。(上記の表は、特別支援学級を除いている。)
- ・中学校の教員は、各教科の免許を所持し、その免許の種類によって配置される。
- ・中学校の教科は9教科、10科目。(国・社・数・理・音・美・保・技・家・英)
- ・全校3学級の教科教員数は基本6名。教科によって無免許、もしくは非常勤時間講師の配置となる。

現在の中学校の【部活動の状況】

- ・中学校の部活動は、教育課程の一環として行われているが、教育課程ではない。
- ・部活動は、生徒の自主的な活動であるが、安全管理等の面から教員が顧問としてその指導を行っている。
- ・基本的に一つの部活動に2人の顧問を配置し、安全管理及び負担軽減となるようにしている。
- ・部活動の開設は、基本的に生徒の希望によることとなるが、教職員の数やその専門性等にも左右される。
- ・種目によっては、チーム編成の関係で成立しづらい部活動があり、他校との合同部活動を探る場合もある。
- ・生徒数、教職員の数によって、部活動の種目は減少し、学区外の学校を希望し通学する生徒もいる。

3つの提言におけるそれぞれのメリット・デメリット等

● メリット / ▲ デメリット / ■ 改善方法

※適正規模審議会、中学校ヒアリング等での意見からまとめたもの

垂直統合 (小中一貫型小学校・中学校)		水平統合 (複数の中学校の統合)		組合せ (小中一貫と中学校統合)			
生徒の人間関係の形成に関わる環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育園・小学校の人間関係を継続し、さらに深い関係を築くことができる。 ● 中学校に進学する際に、人間関係のトラブルがやや抵抗が少ない。(中1ギャップの改善) ● 生徒個々の実態を全教職員で共有した上で生徒指導が行える。 ● 中学生が小学生の面倒を見るなどの関係が生まれる。 <p>▲ 中学校への変化がなく、期待が薄くなってしまふ。</p> <p>▲ 人間関係が広からず固定化する。</p> <p>▲ 小学校までの人間関係がリセットできなない。</p> <p>▲ 少ない生徒・教職員の中で相性が合わない場合は、居場所がなくなってしまう。</p> <p>▲ 転入生がなじめにくく場合がある。</p> <p>▲ 小学校高学年のリーダーシップが育ちにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の学校から集まるので、人間関係が広がる。(新しい友達・趣味の合う友達ができる、自分を变えるチャンスができる、他の地域の友達と日常的に交流できるなど) ● 小学校までの人間関係がリセットできる。 ● 社会性を高め、切磋琢磨する関係を築く機会ができる。 ● クラス替えにより、人間関係の固定化を防ぐことができる。 ● 多様な個性との出会いが期待できる。 ● 全県一区である高校に進学する際にストレスが少なくなる。 <p>▲ 複数の学校から集まり、人間関係を新たに築く必要がある。</p> <p>▲ 大きな集団に慣れる必要がある。(新しい友達ができるか心配、人間関係のトラブルが増えるかもしれない、大勢の中でストレスが生じるなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な考え方の中で、学び合い学習ができる。 ● 互いに刺激し合い、切磋琢磨する中で学習ができる。 ● 総合的な学習などでは、学級を超えた学年集団としての広がりや深まりがある学習活動が行える。 ● 複数の学級による学年自治活動が展開できる。 ● 中学校という新たな段階への不安を持ちつつも、期待をもって自分を高めたいこうとする意欲を活かす機会が設定できる。 <p>▲ 個人の考えが集団の中に埋没してしまうことがある。</p> <p>▲ 競争が激しくなり、ストレスが生まれる。</p> <p>■ 少人数教育やティームティームチンクを推進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科担当教員が複数であることにより、教科ごとの組織的なが指導や研究実践が行える。 ● 複数の教科担当教員の中で教員が学び合う機会が持て、研修が深められる。 ● 全教科の教員の配置により、授業以外の場面でも日常的に生徒への教科指導を行うことができる。 ● 教員集団の多様性、組織化により、生徒の個性に応じた指導や組織的に生徒指導が行える体制ができる。 ● 教員の数が増えることにより、校務分掌の負担が軽減される。 <p>▲ 生徒個々の実態に応じた指導がしにくい。</p> <p>■ 少人数教育やティームティームチンクを推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 多人数の中で、生徒個々の個性を活かした活動を行うことができる。 ● 複数の学級で刺激し合い、深め合い高めあう中で文化活動や体育活動が実施でき、活動の幅が広がる。 ● 生徒の自主的なが活動が活気ある活動として展開される。 <p>▲ 集団活動の中で、生徒によっては個性を発揮する場がなかったり、個性を伸ばす機会が得られないことがある。</p> <p>▲ 現在の学校の伝統や文化が失われてしまう。</p> <p>■ 統合中学校において、これまでの伝統文化を引き継ぎながら、新しい文化を創出し、新たな伝統を築いていく機会とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校規模によるが生徒のニーズに応じた部活動を開設することができる。 ● 刺激し合い競争が増し、チームや個人が強くなる。 ▲ 個々の活躍できる場面が少なくなる。 ■ 部活動の地域移行により、地域単位の部活動を実施する <p>▲ 学区が広がることにより、通学距離及び時間が長くなる。</p> <p>▲ 保護者の送迎などの負担が増える。</p> <p>■ 地域によってスクールバスを運行し、長距離通学の負担を軽減し、安全安心な通学につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校統合により、限られた予算や人材が集中でき、生徒の実態や状況に応じた柔軟性のある対応、組織的な対応ができる。
教員の教科指導 生徒指導に関わる環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 9年間を通じた教育課程を編成し、小学校の教員と連携した教育を推進することができる。 ● 小人数を活かした生徒の実態に応じた指導がしやすい。 ● 小中学校の教員の教科担当の乗り入れを行い、小学校の教科担任制を推進できる。 ● 小学校と中学校の合同での研修会を通して、幅広い研修を行うことができる。 ● 学校数を維持することにより教員数の最大化を保ち、学校間の連携により教育の質の向上を図る。 <p>▲ 専門教科の教員が配置できない教科がある。</p> <p>▲ 教科担当教員が1人であることから、その教員個人の力量が学校全体の教科指導力を左右してしまう。</p> <p>▲ 小規模校であるため、校務分掌の負担が比較的大きい。</p> <p>■ ICTを活用し、近隣の学校の教員との交流を通して、教科指導力を磨き合う機会を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 9年間を通じた教育課程を編成し、小学校の教員と連携した教育を推進することができる。 ● 小人数を活かした生徒の実態に応じた指導がしやすい。 ● 小中学校の教員の教科担当の乗り入れを行い、小学校の教科担任制を推進できる。 ● 小学校と中学校の合同での研修会を通して、幅広い研修を行うことができる。 ● 学校数を維持することにより教員数の最大化を保ち、学校間の連携により教育の質の向上を図る。 <p>▲ 専門教科の教員が配置できない教科がある。</p> <p>▲ 教科担当教員が1人であることから、その教員個人の力量が学校全体の教科指導力を左右してしまう。</p> <p>▲ 小規模校であるため、校務分掌の負担が比較的大きい。</p> <p>■ ICTを活用し、近隣の学校の教員との交流を通して、教科指導力を磨き合う機会を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 9年間を通じた教育課程を編成し、小学校の教員と連携した教育を推進することができる。 ● 小人数を活かした生徒の実態に応じた指導がしやすい。 ● 小中学校の教員の教科担当の乗り入れを行い、小学校の教科担任制を推進できる。 ● 小学校と中学校の合同での研修会を通して、幅広い研修を行うことができる。 ● 学校数を維持することにより教員数の最大化を保ち、学校間の連携により教育の質の向上を図る。 <p>▲ 専門教科の教員が配置できない教科がある。</p> <p>▲ 教科担当教員が1人であることから、その教員個人の力量が学校全体の教科指導力を左右してしまう。</p> <p>▲ 小規模校であるため、校務分掌の負担が比較的大きい。</p> <p>■ ICTを活用し、近隣の学校の教員との交流を通して、教科指導力を磨き合う機会を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 9年間を通じた教育課程を編成し、小学校の教員と連携した教育を推進することができる。 ● 小人数を活かした生徒の実態に応じた指導がしやすい。 ● 小中学校の教員の教科担当の乗り入れを行い、小学校の教科担任制を推進できる。 ● 小学校と中学校の合同での研修会を通して、幅広い研修を行うことができる。 ● 学校数を維持することにより教員数の最大化を保ち、学校間の連携により教育の質の向上を図る。 <p>▲ 専門教科の教員が配置できない教科がある。</p> <p>▲ 教科担当教員が1人であることから、その教員個人の力量が学校全体の教科指導力を左右してしまう。</p> <p>▲ 小規模校であるため、校務分掌の負担が比較的大きい。</p> <p>■ ICTを活用し、近隣の学校の教員との交流を通して、教科指導力を磨き合う機会を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数であることにより、一人一人が活躍できる場面が多い。 ● 小学校の行事と連携した活動が工夫できる。 ● 小学生と関わる中で、より幅広い活動が展開できる。 <p>▲ 小さい集団の中での活動であり、共同作業による発展性に限界がある。</p> <p>■ 地域の方との交流、近隣の学校との交流、姉妹校との交流等を通して、広がりや深まりとともに発展性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでと同じ状況の中で継続できる。 ▲ 学校内に設置できる部活動も限定される。 ■ 近隣の学校との合同部活動を実施する。 ■ 部活動の地域移行により、地域単位の部活動を実施する。 <p>● これまでと同じ学区の中で通学できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 施設が離型の一貫教育では、これまでと基本的に変わらず現状維持となる。 ▲ 施設一体型の場合、小学生と共有できる施設に限度があること、共有する場合にはお互いに制限されてしまうことがある。
通学に関わる環境	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学区を地域として、生徒は関わりが継続できる。 ● 市内8地区を学区として、これまでの地域との関わりの中で学校運営が継続できる。 ● 小中同一の学校運営協議会において、活動が実施できる。 <p>▲ 小学校と同一の学区の中で、地域の広がりや視点の広がりを持ちにくい。</p> <p>■ 小学校の学区のままでも、北杜市という視点で地域を考え、広がりや発展性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学区を地域として、生徒は関わりが継続できる。 ● 市内8地区を学区として、これまでの地域との関わりの中で学校運営が継続できる。 ● 小中同一の学校運営協議会において、活動が実施できる。 <p>▲ 小学校と同一の学区の中で、地域の広がりや視点の広がりを持ちにくい。</p> <p>■ 小学校の学区のままでも、北杜市という視点で地域を考え、広がりや発展性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学区を地域として、生徒は関わりが継続できる。 ● 市内8地区を学区として、これまでの地域との関わりの中で学校運営が継続できる。 ● 小中同一の学校運営協議会において、活動が実施できる。 <p>▲ 小学校と同一の学区の中で、地域の広がりや視点の広がりを持ちにくい。</p> <p>■ 小学校の学区のままでも、北杜市という視点で地域を考え、広がりや発展性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学区を地域として、生徒は関わりが継続できる。 ● 市内8地区を学区として、これまでの地域との関わりの中で学校運営が継続できる。 ● 小中同一の学校運営協議会において、活動が実施できる。 <p>▲ 小学校と同一の学区の中で、地域の広がりや視点の広がりを持ちにくい。</p> <p>■ 小学校の学区のままでも、北杜市という視点で地域を考え、広がりや発展性を持たせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がることにより、通学距離及び時間が長くなる。 ▲ 保護者の送迎などの負担が増える。 ■ 地域によってスクールバスを運行し、長距離通学の負担を軽減し、安全安心な通学につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	
地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学区が広がり、生徒は小学校のときより広い視点で地域を意識し、考え、活動の幅が広がる。 ● 小学校の地域の上に、北杜市全体を我が町という意識を醸成し、市全体を地域ととらえた教育を推進する。 ● 北杜市の中学生を北杜市の地域住民が支援していく体制づくりへと意識の変革を図る。 <p>▲ これまでの地域から中学生の声が聞こえなくなってしまう。</p> <p>■ 学区が広がっても、それぞれの地域の方との交流の機会を継続し、より多彩なものとなるよう発展させる。</p>	

令和10・16年度

～ 令和4年度の小中学校児童生徒数(見込み)に基づいた「令和10年度・16年度の状況」～

明野	明野小						明野中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	17	16	21	13	23	24	30	25	29
児童生徒数	114						84		
全校数	198								
標準学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	6学級						3学級		
教員配当数	6名						6名		
教員(特支1仮定)	8名						7名		
全教員数	15名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							17	16	21
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

須玉	須玉小						須玉中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	30	27	31	41	37	29	29	38	18
児童生徒数	195						85		
全校数	280								
標準学級数	1	1	1	2	1	1	1	1	1
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	7学級						3学級		
教員配当数	8名						6名		
教員(特支1仮定)	9名						7名		
全教員数	16名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							30	27	31
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

高根	高根東小・高根西小						高根中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
高根東	28	27	18	32	30	30	62	85	78
高根西	8	16	14	21	26	24			
児童生徒数	274						225		
全校数	499								
標準学級数	2	2	1	2	2	2	2	3	2
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	1
小中学級数	11学級						7学級		
教員配当数	12名						12名		
教員(特支1仮定)	13名						14名		
全教員数	27名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							36	43	32
標準学級数							1	2	1
はぐくみ学級							0	0	0

長坂	長坂小						長坂中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	38	47	53	49	37	56	62	55	57
児童生徒数	280						174		
全校数	454								
標準学級数	2	2	2	2	1	2	2	2	2
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	11学級						6学級		
教員配当数	12名						9名		
教員(特支1仮定)	13名						11名		
全教員数	24名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							38	47	53
標準学級数							1	2	2
はぐくみ学級							0	0	0

大泉	泉小						泉中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	32	24	31	30	37	38	37	41	37
児童生徒数	192						115		
全校数	307								
標準学級数	1	1	1	1	1	1	1	2	1
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	6学級						4学級		
教員配当数	6名						7名		
教員(特支1仮定)	8名						8名		
全教員数	16名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							32	24	31
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

小淵沢	小淵沢小						小淵沢中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	19	21	25	25	36	23	44	29	45
児童生徒数	149						118		
全校数	267								
標準学級数	1	1	1	1	1	1	2	1	2
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	6学級						5学級		
教員配当数	6名						8名		
教員(特支1仮定)	8名						9名		
全教員数	17名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							19	21	25
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

白州	白州小						白州中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	16	15	14	16	15	16	13	17	16
児童生徒数	92						46		
全校数	138								
標準学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	6学級						3学級		
教員配当数	6名						6名		
教員(特支1仮定)	8名						7名		
全教員数	15名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							16	15	14
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

武川	武川小						武川中		
令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計	17	17	22	21	20	22	24	14	17
児童生徒数	119						55		
全校数	174								
標準学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
はぐくみ学級	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小中学級数	6学級						3学級		
教員配当数	6名						6名		
教員(特支1仮定)	8名						7名		
全教員数	15名								
令和16年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学年別計							17	17	22
標準学級数							1	1	1
はぐくみ学級							0	0	0

【各地域での垂直統合を基本とした場合】

- 令和10年度
 - ・学校規模(小中): 最小138人～最大499人
 - ・学年学級数: ほぼ単級6校、2学級2校
 - ・学年児童生徒数: 20人以下の学校が複数校
 - ・教員配置数(小中): 最小15人～最大27人

- 令和16年度以降
 - ・8校すべてで単級になることが想定される

【複数地域での垂直統合を基本とした場合】

- ・地域によっては、2地域では複数学級にならない場合もある

「水平統合1校を基本」として想定した場合

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
統合中	明野	須玉	高根東	高根西	長坂	泉	小淵沢	白州	武川
学年別計	205	210	229	248	261	262	301	304	297
全校生徒数	644			771			902		
中学標準学級数	6	6	6	7	7	7	8	8	8
はぐくみ35人学級	0	0	1	1	1	1	1	1	1
学級生徒数	34	35	33	31	33	33	33	34	33
全校学級数	19学級			24学級			27学級		
教員配当数	28名			34名			38名		
教員(特支2仮定)	31名			37名			41名		

6学級

8学級

9学級

令和10・13・16年度

～ 令和4年度の小中学校児童生徒数(見込み)に基づいた「令和10・13・16年度の状況」～

学級数に基づく、教科担当教諭の配置例

学年学級数	特支(仮定)	全校学級数	教員数	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技術	家庭	英語
1学級	1学級	4学級	7名	①	①	①	①	▲	▲	1	▲	▲	2
2学級	1学級	7学級	11名	2	①	①	2	1	▲	1	▲	▲	2
3学級	2学級	11学級	17名	3	2	2	2	1	1	2	1	▲	3
4学級	2学級	14学級	21名	3	3	3	3	1	1	2	1	1	3
5学級	2学級	17学級	25名	4	3	4	3	1	1	3	1	1	4
6学級	2学級	20学級	30名	5	4	4	4	1	1	4	1	1	5
7学級	2学級	23学級	34名	5	5	5	5	2	1	4	1	1	5
8学級	2学級	26学級	38名	6	5	6	6	2	1	4	1	1	6

※すべての教科に教科免許を有する教諭の配置が望まれる。【▲】
 ※主要教科(5教科)には、複数の教科担当の配置が望まれる。【○数字】

- ・全教科に免許保有者を配置
- ・主要教科に複数教科担当を配置

- ※「はぐくみ35人学級」は、山梨県の少人数学級制度(はぐくみプラン)に基づき、増加される学級数
- ※「学級生徒数」は、1学級の平均生徒数
- ※「教員配当数」は、教頭は除き、はぐくみ加配を加えた人数
- ※「教員(特支2仮定)」は、特別支援学級が2学級開設された場合の全配当数

「水平統合2校を基本」として想定した場合【一例】

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
2統 ①合 中	A	B	C	D	E				
学年別計	115	110	115	137	153	145	158	189	162
全校生徒数	340			435			509		
中学標準学級数	3	3	3	4	4	4	4	5	5
はぐくみ35人学級	1	1	1	0	1	1	1	1	0
学級生徒数	29	28	29	34	31	29	32	32	32
全校学級数	12学級			14学級			16学級		
教員配当数	17名			20名			23名		
教員(特支2仮定)	20名			23名			26名		

4学級

5学級

5学級

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
2統 ②合 中	F	G	H	I					
学年別計	90	100	114	111	108	117	143	115	135
全校生徒数	304			336			393		
中学標準学級数	3	3	3	3	3	3	4	3	4
はぐくみ35人学級	0	0	1	1	1	1	1	1	0
学級生徒数	30	33	29	28	27	29	29	29	34
全校学級数	10学級			12学級			13学級		
教員配当数	15名			17名			19名		
教員(特支2仮定)	18名			20名			21名		

3学級

4学級

4学級

【水平統合1校を基本とした場合】

- ・学年生徒数: R10 学年約300人 → R16 学年約200人
- ・標準学年学級数: R10 学年約9学級 → R16 学年約約6学級
- ・学校教員配置数: R10 約40人 → R16 約30人

【水平統合2校を基本とした場合】

- ・学年生徒数: R10 学年約115～190人 → R16 学年約90～115人
- ・標準学年学級数: R10 学年約4～5学級 → R16 学年約約3～4学級
- ・学校教員配置数: R10 約20人 → R16 約15人

【水平統合3校を基本とした場合】

- ・学年生徒数: R10 学年約80～120人 → R16 学年約60～90人
- ・標準学年学級数: R10 学年約約3～4学級 → R16 学年約約2～3学級
- ・学校教員配置数: R10 約15人 → R16 約10人

「水平統合3校を基本」として想定した場合【一例】

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
3統 ①合 中	A	B	C	D					
学年別計	80	75	88	91	95	91	96	94	80
全校生徒数	243			277			270		
中学標準学級数	2	2	3	3	3	3	3	3	2
はぐくみ35人学級	1	1	0	0	0	0	0	0	1
学級生徒数	27	25	29	30	32	30	32	31	27
全校学級数	9学級			9学級			9学級		
教員配当数	13名			14名			14名		
教員(特支2仮定)	16名			17名			17名		

3学級

3学級

3学級

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
3統 ②合 中	E	F	G						
学年別計	68	67	63	83	93	92	99	126	115
全校生徒数	198			268			340		
中学標準学級数	2	2	2	3	3	3	3	4	3
はぐくみ35人学級	0	0	0	0	0	0	0	0	1
学級生徒数	34	34	32	28	31	31	33	32	29
全校学級数	6学級			9学級			11学級		
教員配当数	9名			14名			17名		
教員(特支2仮定)	13名			17名			19名		

2学級

3学級

4学級

令和10年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
令和13年度	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
令和16年度	中1	中2	中3						
3統 ③合 中	H	I							
学年別計	57	68	78	74	73	79	106	84	102
全校生徒数	203			226			292		
中学標準学級数	2	2	2	2	2	2	3	3	3
はぐくみ35人学級	0	0	1	1	1	1	1	0	0
学級生徒数	29	34	26	25	24	26	27	28	34
全校学級数	7学級			9学級			10学級		
教員配当数	10名			12名			15名		
教員(特支2仮定)	14名			16名			18名		

2学級

3学級

3学級